

生田緑地のカネコトタテグモとキシノウエトタテグモ

水山栄子¹⁾・日置乃武子²⁾

Antrodiaetus roretzi (L.Koch) and *Latouchia swinhoi typica* Kishida
from Ikuta-Ryokuchi Park, Kawasaki-City

Eiko MIZUYAMA¹⁾・Nobuko HIOKI²⁾

I はじめに

著者らは川崎市青少年科学館が中心となって行った第5次自然環境調査(1999~2002)で生田緑地での調査を行った際に、多くのカネコトタテグモとキシノウエトタテグモの巣穴を確認した。今回(2003~2004)それらの巣穴が緑地内にどのように分布しているかを園路沿いに調査を行った。巣穴の調査は第3次自然環境調査(1991~1994)でも行われ6箇所を報告している。

II 調査地の概要

生田緑地は標高30~80mの多摩川沿いに延びる多摩丘陵の先端域に位置する約50haの公園である。

関東ローム層の模式地となっている生田緑地は、最下部に泥質の飯室層、その上におし沼礫層、関東ローム層と重なり最上部は表土で覆われる。緑地内には数多くの園路が整備され、雑木林を削って作られた箇所も多く、関東ローム層が露出していてカネコトタテグモやキシノウエトタテグモの巣穴の観察を容易にしている。

III 調査期間

緑地内の園路を歩いて道沿いの巣穴を調べ、地図に記録した。調べられる場所が園路沿いに限られるが、網目状に多くの園路が整備されているので、緑地全体のカネコトタテグモとキシノウエトタテグモの生息状況を知ることができる。しかし、調査時の人数が少なかったり、一度のみの調査地点もあるので、見落としもあると考えられる。また、カネコトタテグモとキシノウエトタテグモの巣穴近くの林縁においてトラップ調査もおこなった。

IV 調査結果

両開きの扉をつけたカネコトタテグモの巣穴(写真8)と片開きの扉をつけたキシノウエトタテグモの巣穴(写真7)は地図上に示した地点で観察された。多くの場所ではどちらかの巣穴が観察されただけであったが、3箇所では同じ崖地に2種の巣穴をみる事ができた。特に写真5・6の場所では近くに巣穴を作っていることが確認された。この2種は混棲しないとされており、このように2種が共に棲息することは稀である。また、飯室層

は泥質で硬いため巣穴は無いが、おし沼礫層、関東ローム層、表土には巣穴が見られる。トラップ調査ではキシノウエトタテグモのみが採集され、カネコトタテグモは採集されなかった。第3次自然環境調査で確認された箇所は1箇所は工事でなくなったが、他の5箇所は今回も生息が確認された。

V 考察

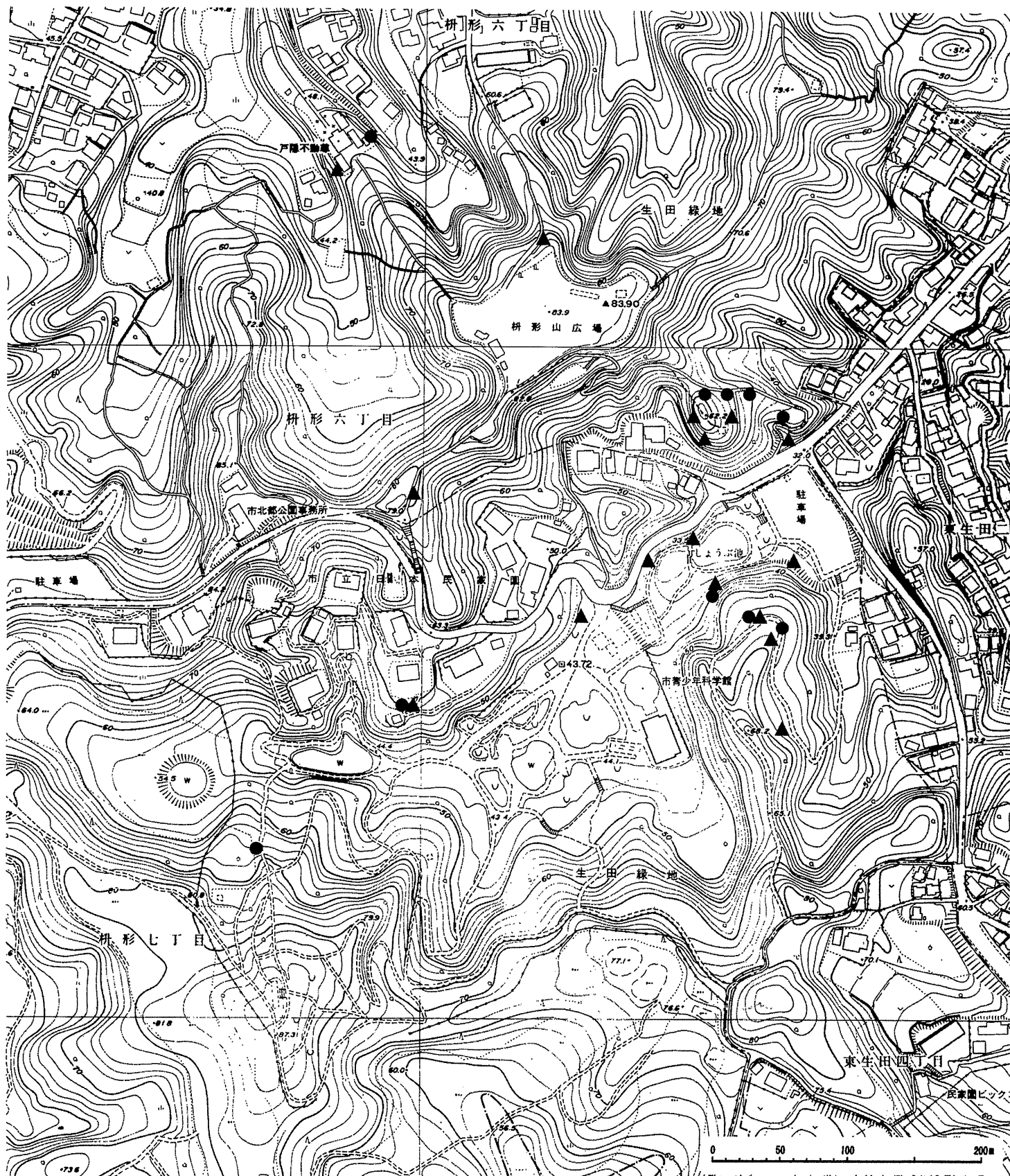
緑地内にはカネコトタテグモと絶滅危惧種であるキシノウエトタテグモが、広く生息している。これは生田緑地の環境が良好であると言える。しかし、しょうぶ池の周囲やしょうぶ池から北部公園事務所への道沿いではその数が減少している。これは落ち葉を完全取り除いたり、コケの生えた地面を削り取るなどの行き過ぎた清掃が一因になっていると思われる。

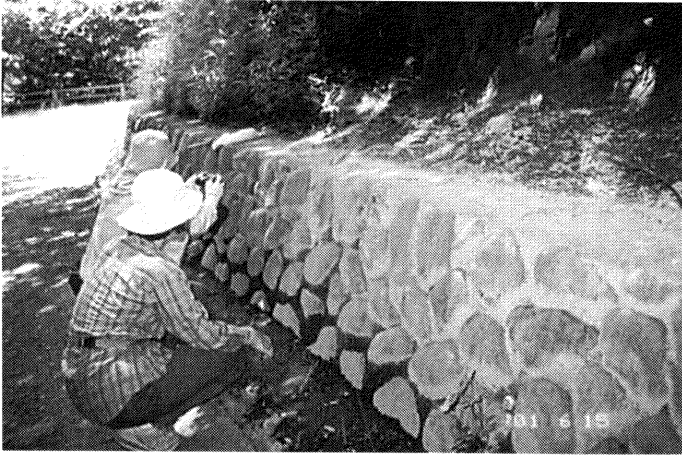
参考文献

熊田憲一・木下あけみ、1994.
川崎市生田緑地の真正蜘蛛類。川崎市自然環境調査報告 III : 167-176.

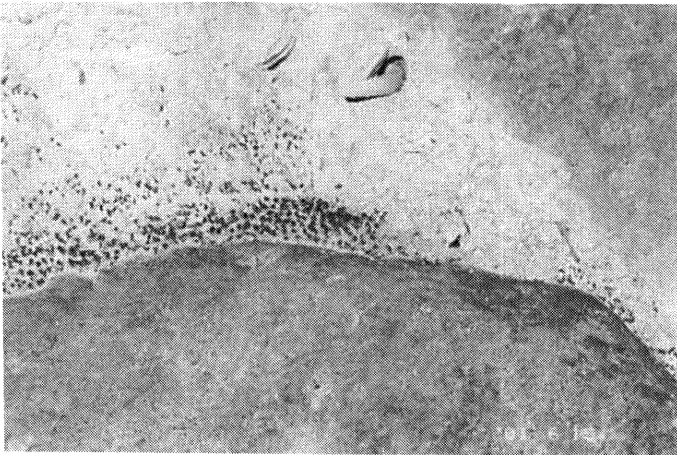
1) 川崎市麻生区王禅寺東1-30-4 2) 秦野市千村3-17-1-403

生田緑地内の生息地点 ● カネコタテグモ ▲ キシノウエタテグモ

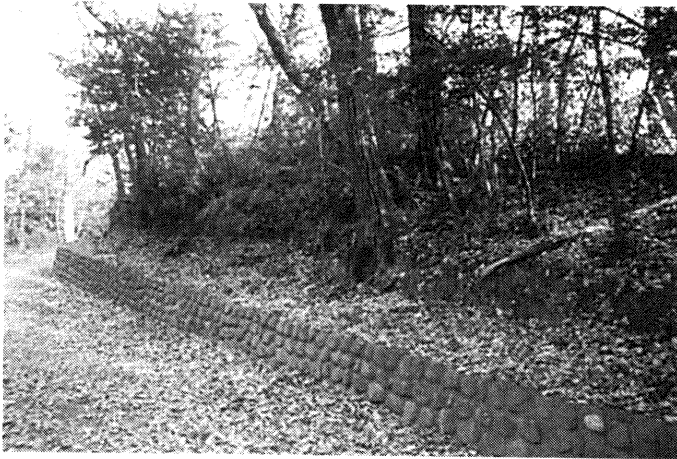




1. 石垣の隙間にもキシノウエトタテグモの巣穴がある



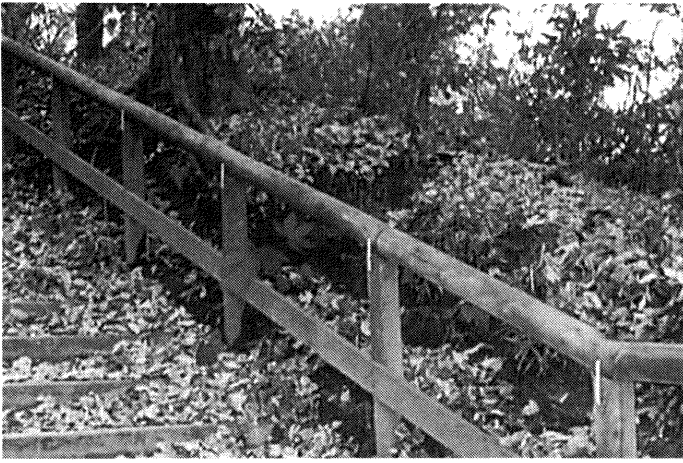
2. 上の石垣から出たクモタケ、キシノウエトタテグモに寄生し、6月下旬から7月上旬にかけて見られる。



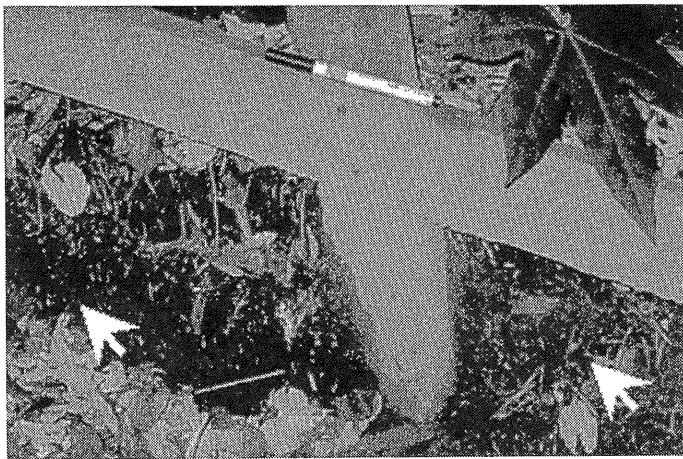
3. ローム層を削って作られた園路 巣穴の観察ができる



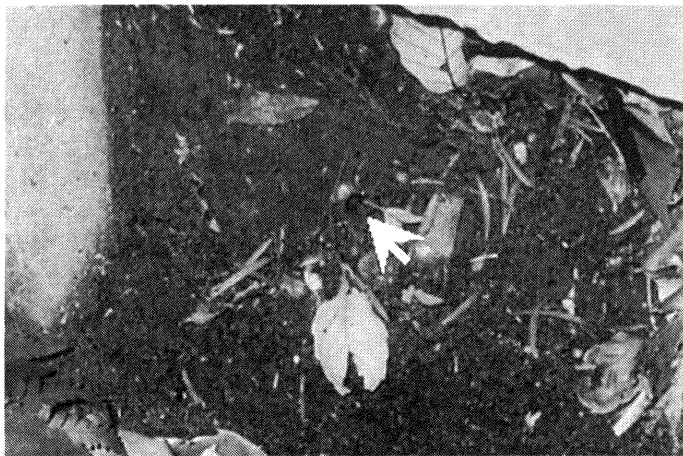
4. 飯室層は泥質で硬く風化された部分以外には巣穴はない



5. 階段横の削られた場所に巣穴がある



6. カネコタテグモとキシノウエトタテグモの巣穴



7. 片開きの扉をつけたキシノウエトタテグモの巣穴



8. 両開きの扉をつけたカネコタテグモの巣穴